

# 道の駅

有事の備えは  
 平時の営みから

# エコステーション化計画 アンケート調査

先月号で発表した「道の駅エコステーション化計画」の内容について、道の駅や企業の方々はどのように考えておられるのでしょうか。アンケート調査を行いました。(調査期間 11月17日から25日)

道の駅については、12月8日の「道の駅価値創造セミナー」に出席予定の25箇所を送付し、そのうち11か所から回答を得ました。

その結果、全ての道の駅が災害時にも3つの基本機能を止めないように道の駅の機能を強化することに賛成またはどちらかといえば賛成で、反対はありませんでした。(次頁、図表1)

また、全ての道の駅が「道の駅エコステーション化計画」に賛成またはどちらかといえば賛成で、反対はありませんでした。(図表2)

具体的に導入に興味のある解決策(ソリューション)については、「地域情報発信人材の育成」と「自然エネルギーの活用」が最も多く、それぞれ6か所が挙げています。福島原発の事故を受けて社会的に関心が高まっており、自然エネルギーの導入に積極的な道の駅が多いことがうかがえます。また、地域の情報を集め、編集し、発信する技量を持った人材が求められているようです。(図表3)

6ページ以降では、道の駅エコステーション化計画を実現するための製品・サービスを持つ企業の一部を紹介しています。



## 道の駅エコステーション化計画とは

“有事の備えは平時の営みから”をコンセプトに、災害などの緊急時には道の駅の機能維持に活用でき、平常時には省エネルギーや環境対策に役立つ設備や体制を道の駅に整備していくプロジェクト。推進主体は伊藤忠商事である。

具体的には、自然エネルギー発電と蓄電池を組み合わせた自立型電力の整備や、電動車を活用したエコドライブ観光開発、地域情報や緊急情報を扱う地域コミュニティ情報局の開設などの施策だ。地域それぞれの状況に合わせて、住民のニーズに合わせた機能が選択される。必ずしも防災計画上の“避難所”となることを意味するわけではない。ハードウェア(設備)の整備だけでなく、人材などのソフトウェアの整備を合わせて重視することも特徴的だ。